

「和の住まい推進リレーシンポ

ジウム in 富山」の開催

1 開催趣旨

日本の伝統的な住まいには、瓦、土壁、縁側、続き間、たたみ、襖をはじめ地域の気候・風土・文化に根ざした空間・意匠、工法、材料などの住まいづくりの知恵が息づいていましたが、近年はこうした伝統的な住まいづくりとともに、そこから生み出された暮らしの文化も失われつつあります。

このようなことから、今回、和の住まいや日本の住文化のよさの再認識、伝統技能の継承と育成、伝統産業の振興・活性化等を図っていくため、国土交通省から補助を得て「和の住まい推進リレーシンポジウム in 富山」を開催しました。

2 シンポジウムの開催概要

2月21日(土)午後1時30分から富山市のサンシップとやま1階福祉ホールで開催し、最初に主催者として富山県木造住宅生産体制強化推進協議会の丸田和重会長が挨拶を行い、引続き国土交通省の橋口真依氏が「和の住まいのすすめ」として、木造住宅の現状に加えて、遅きに失した感があるがと前置きし、住まいづくりや生活の中における「和の住まい」の良さに関して説明があり、観光庁の赤道正悟氏からは「観光庁の取り組みについて」観光行政、特に外国からの観光客誘致の必要性と取組み状況について説明がありました。

その後、(株)文化事業部代表取締役のセーラ・マリ・カミングス氏から「和の住まいの大切さについて」と題して基調講演があり、自身の日本に来てからの活動や現在の暮らしぶり、そして自身の住まい方や生き方を含めた自然環境との共生のあり方、また今危うくなっている先人の知恵の伝承の必要性について、ユーモアとウィットに富んだお話でした。海外から来られたにもにかかわらず、日本人以上に和の心の理解を持っておられることが何われ驚かされました。

次に、写真家の風間耕司氏から「私の好きな富山の原風景」と題して基調講演があり、自身の膨大な写真データから、富山県の優れた建築物を中心に風光明媚な自然景観や人々の暮らしを含めて紹介があった。これらの中には、氏の熱い思いにも拘らず、既に解体されたり放置され崩壊寸前の貴重な建築も多くあることが残念であり、また、守っていくべき富山の地域に根付いている生活文化や祭り等の伝統行事が、現代社会では、存続が危うくなってきていること等を指摘されました。

休憩を挟んで、「今、見直される和の暮らし」のパネルディスカッションがあり、稲葉実富山職藝学園理事長がコーディネーターとなり、講演者のカミングスさん、風間さんの他、久郷慎治久郷一樹園代表取締役、般若陽子金屋町まちづくり協議会会長、横山天心富山大学芸術文化学部講師がパネラーを務めました。



この中で、地域の伝統や文化に基づいた季節毎の家庭の行事や地域の祭り等のイベントの大切さが強調されるとともに、日頃の親世代の生活スタイルや家庭教育の重要性が指摘されました。また、普段の生活の中に和を取込むことの必要性とともに、現代を生きる我々自身がこの機会に改めて生き方を見直すことが必要ではないかとの提言もありました。

さらに、単に伝統的な和風建築の様式をそのまま現代生活にも利用するだけでなく、現代社会に和の精神を取り入れる可能性も提示されました。

ただ、熱心な討議と質疑応答により時間オーバーとなり、質疑途中で打ち切らざるを得なかった点は残念でした。

なお、参加者全員に配布された「和の住まいのすすめ」と題された国土交通省を中心とした和の住まい推進関係省庁連絡会議作成の冊子は、住まいづくりを考える上で大変参考となる資料でした。

(事務局：(公社)富山県建築士会)

